

平成30年度 学力調査結果について



教育指導課指導係 ☎0824-73-1184

本年度実施した、全国学力・学習状況調査および広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は次のとおりでした。2つの学力調査の結果を受けて、庄原市の児童生徒の学力や学習の状況をお伝えします。

全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省が行う、全国学力・学習状況調査が4月17日に実施され、小学6年生と中学3年生が参加しました。(表1)

表1 各教科の平均正答率

〔小学6年生〕

(%)

〔中学3年生〕

(%)

※Aは基礎的・基本的な内容、Bは知識・技能を活用する内容
※本年度、全国平均正答率以外は整数値で公表

教科	庄原市	広島県	全国
国語A	78	73	70.7
国語B	64	59	54.7
算数A	67	66	63.5
算数B	57	54	51.5
理科	67	63	60.3

教科	庄原市	広島県	全国
国語A	78	76	76.1
国語B	61	61	61.2
数学A	68	66	66.1
数学B	48	46	46.9
理科	71	66	66.1

表1のとおり、全国学力・学習状況調査では、すべての教科で平均正答率が全国平均と同程度か上回っていますが、知識・技能を活用する内容のB問題の平均正答率がA問題に比べて低く、特に、数学Bは50%を下回り、継続した課題となっています。

それぞれの教科に共通した課題として、与えられた資料を組み合わせて表現する、事象について説明する、対話場面をもとにして自分の考えを記述するといった表現する力、とりわけ、「書く力」に課題が見られました。

各校では、児童生徒により一層の学力をつけるため、自分の考えを表現する「書く力」の育成、生活場面などと関連を図った指導、読解力の育成など、さらなる取り組みの充実を行います。

広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果

広島県教育委員会が行う、広島県「基礎・基本」定着状況調査における児童生徒質問紙調査が6月12日から22日の間に実施され、小学5年生と中学2年生が参加しました。なお、本年度は、教科の調査は行われませんでした。

図1 家庭学習

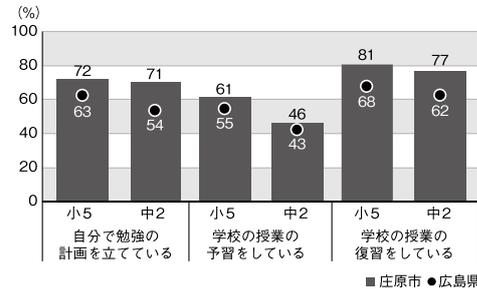


図2 平日の家庭学習1時間以上の児童生徒の割合の推移

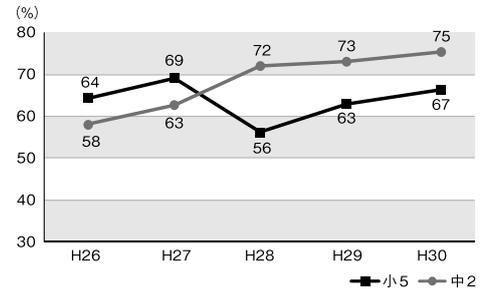


図3 平日にテレビやゲームを、1日に3時間以上見ている児童生徒の割合の推移

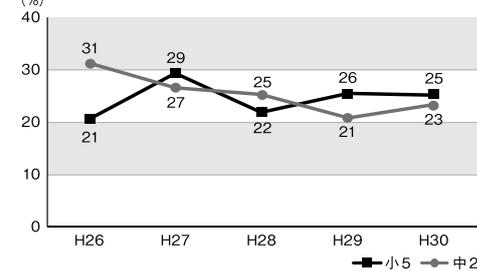


図4 読書活動

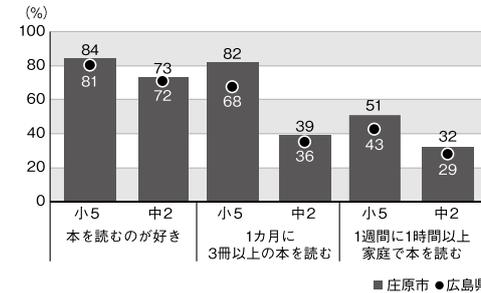


図1のとおり、自分で勉強の計画を立てたり、授業の予習・復習をしたりしている児童生徒の割合は、すべて県平均を大きく上回っています。また、図2から、家庭で1日1時間以上勉強する割合は、小学5年生は平成28年度から増加傾向、中学2年生の割合は年々増加傾向にあり、家庭学習の習慣が定着してきていることが分かります。

図3のとおり、これまで課題であったテレビやゲームの視聴時間については、小学5年生、中学2年生とも、20~30%の間で推移しています。

図4のとおり、「本を読むのが好き」「1カ月に3冊以上の本を読む」「1週間に1時間以上家庭で本を読む」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、いずれも県平均を上回っています。今後も、ますます読書好きな児童生徒が増えるよう、家庭でも一緒に読書する時間を確保することが大切です。

市教育委員会では、児童生徒の望ましい生活習慣の定着と学力の向上に向け、家庭・学校・地域が連携した取り組みを進めていきます。